

企業ニュース 国際石油開発帝石

(東証1部:1605) <https://www.inpex.co.jp>

作成者:兵藤三郎

国内最大の石油・天然ガス開発企業

2006年、国際石油開発と帝国石油との経営統合により国際石油開発帝石ホールディングスとして設立。2008年、現社名に変更した。石油や天然ガス、その他の鉱物資源の調査、探鉱、開発、生産、販売などを行う企業。石油・天然ガス上流事業では世界20数カ国、約70プロジェクトを展開。生産量は原油換算で日量45万バレル(18.3期平均)、埋蔵量(18.3期末の確認+推定)53億バレル。1998年の公開入札により探鉱権を取得したオーストラリア沖合のイクシスガス・コンデンセート(超軽質油)田の開発プロジェクト(以下、イクシスLNGプロジェクト)において、沖合生産・処理施設における生産開始に向けた準備作業が完了した。10月1日には出荷が開始され、今下期以降の業績貢献が期待できよう。当社はイクシスガス・コンデンセート田周辺に20の探鉱区を保有(探鉱活動実施中)、発見されたガス構造は少なくとも11鉱区に渡っている。

◇イクシスLNGプロジェクトの概要

項目	内容
位置	西豪州沖合約200Km
生産期間	約40年
生産計画(LNG)	年間約890万トン
同(LPG)	年間約165万トン
同(コンデンセート)	日量約10万バレル
確認埋蔵量(石油換算)	約9.3億バレル

(出所) 国際石油開発帝石資料よりCAM作成

下期以降、イクシスLNGプロジェクトが収益貢献へ

19.3期・第1四半期(4~6月)の連結業績は売上高が2,024億円、前年同期比7%減、当期純利益が168億円、同16%減。原油価格は上昇したが、アタカおよびマハカム沖鉱区(インドネシア:天然ガス田)の生産分与契約終結などにより減収減益となった。減収減益要因は期初より想定されていたが、油価(ブレント)・為替前提条件(65ドル/バレル、105円/ドル)は大きく上回って推移したため、会社計画は大幅に上回った模様。

19.3期業績の会社計画は、売上高が9,450億円、前期比1%増、当期純利益が480億円、同19%増。前提条件は原油価格(同上)を65ドル/バレルから71.2ドル/バレル(4-6月実績75ドル/バレル、7-3月期70ドル/バレル予想)に、為替を105円/ドルから109.8円/ドル(同109.1円/ドル実績、同110.0円/ドル予想)に修正した。イクシスLNGプロジェクトは18年10月~12月にかけて生産物の出荷を前提(100億円程度を下期の純利益に織り込む)。会社側からは10月1日付で沖合生産・貯油出荷施設からコンデンセートの出荷が開始されたことがリリースされた。

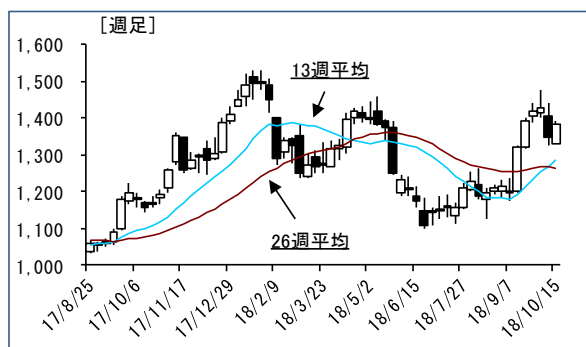
[株価動向・投資判断]

イクシスLNGプロジェクト稼働による収益貢献が期待できる銘柄。一大プロジェクト工事完了に伴い、開発費などのコストも一巡しよう。

<1605 国際石油開発帝石 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	円	円
17.3	874,423(▲13)	336,452(▲14)	333,891(▲11)	46,168(175)	31.6	18.00
18.3	933,701(7)	357,363(6)	387,269(16)	40,362(▲13)	27.6	18.00
19.3 予	945,000(1)	460,000(29)	463,000(20)	48,000(19)	32.9	18.00



[主要株価指標]

(売買単位:100株)

株価(2018/10/15)	1,381.0 円
年初来高値(高値日)	1,529.0 円(18/1/15)
同 安値(安値日)	1,100.0 円(18/6/22)
予想PER(19.3予)	42.0 倍
1株株主資本(PBR算出用)	2,017.1 円
PBR	0.68 倍
予想配当利回り	1.30 %
(1株当たり配当金18.00円)	
ROE(18.3)	1.4 %
発行済み株式数	146,232 万株